（別添資料１）

事業所名　クオリティ・オブ・ライフ すまいる支援教室

支援プログラム（様式）

作成日　R7 年 3 月 1 日

法人（事業所）理念	こどもたちの未来を拓く		
支援方針	主体性の尊重：子ども一人ひとりが自分の意志で選択し、行動する機会を増やす 未来志向の活動：職業体験や新しいスキルを学ぶプログラムを取り入れる。 多様性と包摂：様々な背景やニーズを持つ子どもが安心して参加できる環境を整える。		
営業時間	9 時 00 分から 17 時 00 分まで	送迎実施の有無	（あり） なし
	支　援　内　容		
本人支援　健康・生活	・子どもが健康で安全な生活を送れるように、心と体の状態をきめ細やかに観察します。 ・睡眠、食事、排泄等の基本的な生活習慣を定着させ、健康維持に必要な生活リズムを支援します。 ・食事の場面では、咀嚼・嚥下などの機能を育成するとともに、楽しい雰囲気づくりを目指します。 ・子ども一人ひとりの身体的・精神的・社会的な特性を理解し、それぞれの持つ力をさらに伸ばし、未来を広げるための基盤を作ります。 ・食事、排泄、衣類の着脱、清潔保持等に必要な基本的な技能を、子どもの状態や成長に応じて個別に支援します。 ・子どもの学びや成長を促進するために、遊びや体験の場面を工夫した環境を提供します。		
本人支援　運動・感覚	・椅子に座る、寝返りを打つなど日常生活に必要な姿勢の維持を支援。必要に応じて機能訓練を実施し、関節の拘縮や筋力低下を防ぐ。 ・公共交通機関の利用方法を教え、事業所外の環境での移動を支援。 ・カラーボール遊びや音楽に合わせた運動などで視覚、聴覚、触覚など感覚を育む活動。 ・感覚過敏や鈍麻などの特性に配慮し、刺激の少ない空間や音量調整を実施。		
本人支援　認知・行動	・こだわりや偏食など、子どもの障害特性や個性を尊重しつつ、柔軟性を育むための支援を実施。 ・視覚、聴覚、触覚等の感覚を活かし、情報の取得と認知機能向上を促す活動を提供。 ・コミュニケーション支援や適切な行動への正の強化を行い、行動障害が生じるリスクを低減。		
本人支援　言語コミュニケーション	・言葉だけでなく、表情や身振り、各種機器を活用して意思のやり取りを可能にする。 ・人との相互作用を通じて、注意を共有し、共同作業やゲームを通して場面に応じた適切な行動を学ぶ。 ・指差しや身振り、サインを使って環境理解や意思伝達を支援。 ・子どもの特性に応じた、読み書き能力の向上を目指す。		
本人支援　人間関係社会性	・子どもが環境や人に対して安心感・信頼感を持てるよう、安定した日常ルーティンや、穏やかな対話や落ち着ける空間の提供。 ・ロールプレイや質問・応答の練習を含むコミュニケーションワークなど、他者の意図を理解し、場面に応じた適切な行動を学ぶ活動を提供。 ・遊びを通じて他者の動きを模倣し、社会性の発達を促す。 ・自分のできることや苦手なことを理解し、自己肯定感を高めながら、情動を調整する力を育てる支援を行う。 ・集団活動の手順やルールを学び、仲間との相互理解を深める支援を行う。		
家族支援	・子どもの信頼感を育むため、感情や不安に寄り添い、ご家族や周囲の人々と安定した関係を築く支援を提供。 ・ご家族の育児に関する悩みや困りごとについて具体的なアドバイスを行う。 ・　保護者参加型の活動の実施で保護者同士の交流の機会を設け、家族の絆や相互理解を深める場を提供。	移行支援	・本人やご家族の移行先の選択に関する不安や、悩みについて丁寧に相談を受け、進路決定をサポート。 ・地域イベントの参加や、同年代の子どもとの交流を通じて協力や共感のスキルを育む。
地域支援・地域連携	・学校や関係機関と子どもの情報を共有し、支援方法や環境調整について相談・調整を実施。 ・子どもの健康や発達に関する調整や支援を進めるために密な情報共有を実施。 ・地域社会との繋がりを深め、子どもを取り巻く環境を支える協力体制を構築する。	職員の質の向上	・障害特性、発達支援、福祉制度などに関する研修を定期的に実施。 ・日々の支援や対応の中での課題を共有し、改善策を協議する機会を設ける。 ・　職員一人ひとりのキャリアプランを支援し、目標に応じた研修機会を提供。
主な行事等	・課外活動（消防署、警察署等の社会科見学、買い物学習など） ・年間のイベント活動（親子参加イベント、お花見、夏祭り、ハロウィンなど）＊イベントの内容は変更することがあります。 ・年３回の避難訓練 ・野菜の栽培、収穫体験、調理実習などを通じて食育		